

1996年5月31日、ハーレム司教区、H・ポーラス司教は、当時補佐司教であったJ・H・プント司教とともに、教理聖省と話し合ったうえで、「すべての民の御母」という称号のもとに聖母を公に崇敬することに対する許可を与えられました*。

聖母はこの**称号**のもとに1945年から1959年にかけてアムステルダムのイーダ・ペアデマンという、ごく普通の女性に出現されました。聖母は、「すべての民の婦人」あるいは「すべての民の御母」として、すべての人びとに知られ、愛されることをお望みになりました。

聖母は預言的ヴィジョンによって、今のわたしたちの時代の教会と世界の状況を印象的に示されました。また聖母はメッセージの中で、神が御母を通して世界を救われるご計画を明らかにされました。そのご計画の実現のために、聖母は諸民族、諸国民に一枚のご絵とひとつの祈りを与えてくださいました。

この**ご絵**には、すべての民の婦人が地球の上に立たれている姿が描かれています。聖母は神の光に包まれて、救い主であられる御子——聖母とは決して離れることができないほど深く結ばれている御子——の十字架の前に立たれています。聖母の手のひらからは、恵み・救い・平和を表す三筋の光が放たれています。これらの恩恵を、執りなしを願うすべての人に、聖母は取次ぐことができるのです。羊の群れは全世界の民を表しています。彼らは、この世界の中心である十字架を仰ぎ見るまでは決して平安を見つけることはできません。

すべての民の婦人は、わたしたちを堕落、迫りつつある災害、戦争から守るために短い、しかし大変力ある祈りを口述されました。

「この時代の民よ、どうかあなたがたが《すべての民の婦人》の保護のもとにあることを知ってください。執りなし手として婦人を呼び、すべての大惨事が回避されるように願いなさい。この世から堕落を追放してくれるように願いなさい。堕落から災害が生じます。堕落から戦争が起こるのです。わたしの祈りを通してあなたがたはこれらすべてのことから世界が守られるように願わなければなりません。この祈りが神のみ前でどれほど力強く、重要なものであるかをあなたがたは知らないのです」(1955年5月31日)

聖母は誰もが一日に少なくとも一度はこの祈りを祈るようにと願われています。「**世界が変わるということ**を**わたしが保証します**」(1951年4月29日)

すべての民の御母として、聖母はこの世界に一致と平和をもたらすために御父と御子によって遣わされました。また、「この**称号のもとに、この祈りを通して、世界を大きな世界災害から守ることが聖母には許されているのです**」(1953年5月10日)。だからこそ、すべての民の婦人はご絵と祈りを普及するための大規模な**世界的活動**を切に願われているのです。「**どうかあなたがたにできるすべての手段を使って援助し、各自がそれぞれのやり方でこの普及のために心を配ってください**」(1952年6月15日)

*教会の見解について詳しく知りたい方は、
ホームページ www.de-vrouwe.info をご覧ください